様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２６ 日現在

機関番号：１４４０３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2014
課題番号：２４６５２０１４

研究課題名（和文）口述資料データベース構築に基づく現代日本アナーキズム史に関する検討

研究課題名（英文）A Study of Contemporary Japanese Anarchism History based on Datebase Construction of Oral Information

研究代表者
田中　ひかる（TANAKA, HIKARU）

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：００２７２７７４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では1945年以降の日本におけるアナーキズム運動およびそれをグローバルなアナーキズム史の文脈に位置づける上で重要な口述資料を得るとともに、入手困難だった史資料を入手した。その結果、20世紀を通じて形成されたグローバルなアナーキズム・ネットワークと日本のアナーキズム運動との関係について様々な事実が明らかになった。ただし口述資料に関してはすべて非公開であるため、データベース構築に関して情報の取捨選択が必要とされる。また、公表等に関する方法・形式については今後の検討課題である。

研究成果の概要（英文）：In the three years of this project, many important oral information were collected to estimate the historical position of Japanese anarchist movement after 1945 in the context of the global anarchism history; along with these oral information, the valuable materials, such as journals, pamphlets and manuscripts, were also collected. Analysing these information and materials, various facts were revealed about the relationship between the global anarchism network formed throughout the 20th century and Japanes anarchist movement after WWII. However, since the all oral information are private, there must be a very careful selection of information to construct the databese. On the means and format of publication, we need further study and consideration.

研究分野：思想史

キーワード：アナーキズム　日本　口述　資料　データベース　インタビュー　戦後　グローバル

１．研究開始当初の背景

研究代表者は、ドイツをはじめとする欧米のアナーキズム史とその現状を検討する中で、第二次世界大戦後の日本におけるアナーキズム思想・運動が欧米の思想・運動と密接な関係を持ち、相互に影響を与えていたことを示唆する史料を見出してきた。また、日本のアナーキズムは、世界のアナーキズム運動全体の中で重要な位置を占めてきたことがわかった。他方、1990 年代以降、欧米では、21 世紀の新たな観点から 19 世紀以来のグローバルなアナーキズム史を再構築する動きが出ている。

しかし従来、戦後日本アナーキズム史は、一国史の枠組で描かれ、世界のアナーキズム運動との関係についての記述が欠如し、史資料・文献も、特に 1970 年代以降のものが未整理であるため世界の動向に連動できない。しかも新たな観点から分析する前提として、史資料・文献が成立した背景に関する当事者の証言が必要である。ところが、1970 年代以前に現役だった世代の多くは物故し、それ以降の世代も高齢となり、聞き取り調査ができる対象は近年急速に減少している。

この状況とともに、以下の学術的背景があった。

1)『戦後日本アナキズム運動資料』(1988-1990 年）、『日本アナキズム運動人名事典』（2004 年）、および「アナキズム文献センター」による文献・資料収集は、1970 年代以降の資料を組み込んでおらず、インタビューもなく、世界のアナーキズムとの関係に関する調査もない。

2）P. Avrich, *Anarchist Voices* (1995)、および Kalicha/ Kuhn, *Von Jakarta bis Johannesburg* (2010) が、アナーキストに対するインタビューとして評価でき、本研究のモデルとなる。ただし前者は 1945 年以前の記憶が中心であり、後者は現代の若い世代に対するインタビューで構成され、1990 年までの経緯が語られていない。以上が本研究を開始する際の背景である。

２．研究の目的

本研究の目的は、20 世紀後半以降の日本におけるアナーキズムを世界全体のアナーキズム史の中に位置づけることを目的とする。そのために、第二次世界大戦後から現在まで、日本で活動したアナーキストに関する口述資料を収集・整理・分析することを通じて、日本アナーキズム思想史の全体像を描くための史料データベースを作成する。

３．研究の方法

本研究は、研究代表者単独で行われる。計画は、国内での文献・史資料についての予備調査とインタビューによる本調査から設計される。インタビューの対象となるのは、1945 年から今日までの間にアナーキストとして活動した経験のある人々やその家族および関係者であり、収集・分析・整理に際しては、アナーキストになった経緯、思想／運動の傾向、その背景としての組織、機関紙、戦前からの思想・運動・組織の伝承、他の思想・運動からの影響、諸外国の思想・運動との交流や影響関係に着目する。文献・史資料に関する予備調査を通じて、1940-1950 年代、1960-1970 年代、1980-1990 年代、2000-現在、という 4 つの時期について聞き取り調査の対象者を総計 15～20 名程度抽出する。実施した聞き取り調査、および、それに伴って行った文献調査に基づき 1945 年以降の現代日本アナーキズム史に関するデータベースを構築する。ただしその公表の方法・形式に関しては、個人情報に関わる要素を非公表にするなど、細心の注意を払う。

４．研究成果

2012 年度は、口述資料収集の準備として、1945 年以降の日本におけるアナーキズム運動に関わる基礎的な文献・史資料を収集した。大澤正道「戦後日本のアナキズム運動」(『自由連合』1964-1965 年、12 回連載)、『日本アナキズム運動人名事典』(2004 年)、『戦後アナキズム運動資料』(1988-1990 年）全 8 巻＋別巻などの公刊されている文献と史資料を収集し、分析した。

それらを分析する過程で、定期刊行物に掲載された国外のアナーキストとの関わりについての記事情報が少なからずあることがわかった。これらをデータベース化するとともに、それらの人物・組織に関する調査を行った。

こういった作業と関連している論文が、1）および 7）である。これらでは、戦前から戦後まで活躍したアナーキストである山鹿泰治（1892-1970）とロシア出身のユダヤ系移民アナーキストでアメリカ在住のボリス・イエレンスキー（Boris Yelensky, 1889-1974）との往復書簡を分析した。これらの書簡は、アムステルダム国際社会史研究所に所蔵され、いまだ分析されていない。この分析に基づいて、両者の交流、アメリカのアナーキストから日本のアナーキストに対して実施された食糧等の支援があったこと、これを当時の日本アナキスト連盟が山鹿を中心にして受け入れたこと、さらに、朝鮮戦争期のアメリカをはじめとする世界各地のアナーキストから朝鮮本国のアナーキストに対して義援金等が送付され、これを山鹿など日本のアナーキストと日本に滞在する朝鮮出身のアナーキストたちが仲介して朝鮮本国に送り届けた、といった事実を明らかにした。これにより、トランスナショナルなアナーキストのネットワークの中に、1950 年代初頭において日本のアナーキストたちが接続・連携していたという事実の一端を明らかにした。以上の研究の一つの副産物が 8）である。

また、山鹿書簡を所蔵するイエレンスキー文書の調査を行ったきっかけは、研究代表者

が長年取り組んできたアメリカにおけるロシア出身のユダヤ系移民アナーキストによる運動を調査していたからである。彼らが第二次世界大戦直後に日本のアナーキストにコンタクトを取ったのは、それ以前の彼らの運動とその特徴、すなわち、トランスナショナルなアナーキストのネットワーク構築という、本研究が前提としている文脈に関わっている。このような文脈について指摘したのが論文 5）である。これは 2010 年に参加した国際学会報告の成果であるが、これは大逆事件に対してユダヤ系移民アナーキストが抗議したという、日本とユダヤ系移民アナーキストとの接点を明らかにしたものであり、本研究を進めていく上で重要な背景をなしている。同様の研究として、学会報告 2）があり、これも、本研究を進めていく上で重要な要素を構成する。

以上、1950-60 年代の運動に関する調査と同時に、アメリカ連邦文書館に所蔵される占領期の日本アナキスト連盟に対する GHQ が作成した史資料について調査を実施し、これを収集・分析した。他方、1950～60 年代の運動に関する聞き取り調査を、アナキズム文献センターの協力を得て実施し、史料からでは得られない貴重な情報を得ることができた。ただし、この時期の運動において重要な役割を果たした人々の多くは物故しており、現在話が聞けるのは、当時はまだ最も若い世代だった人びとであるが、当時の運動内部にあった様々な問題についてはそれほどくわしくはない。そのような限界がありながらも、この時期に関する調査については一定の成果があった。

日本アナキスト連盟は 1968 年に解散するが、この問題について焦点を当てて調査を進める上で重要な契機となったのは、2012 年 8 月にスイスのサン・ティミエで開催された国際アナーキスト会合への参加であった。本来の目的は、現代日本のアナーキズムが接点を持つ「新しいアナーキズム」という思想と運動の動向、および、国際的なネットワークの現状に関する調査であった。その目的については、一定程度成果があった。日本の新しい世代のアナーキストとの接点も生まれ、2000 年代以降の運動に関する聞き取りの契機ともなった。サン・ティミエの国際アナーキスト会合に参加したことなどに関しては、論文等 2）3）で報告した。

だが、それらとともに、欧米のアナーキストからの問題提起を受けて、日本アナキスト連盟が 1968 年に解散した要因の解明という新たな課題を見いだした。そこで、1968 年前後の時代に運動に関わっていた人びとから聞き取り調査を開始した。その際には、同時期に形成されていたアナーキストの国際的な関係に関して情報を集めた。

翌 2013 年は大杉栄が殺害されて 90 年目に当たり、日本では、その前年から、徐々に、アナーキストおよび大杉栄に関心を持つ研究者らにより様々なイベントが開催され、それにあわせて、アナキズム文献センターとの協力の下、『大杉栄全集』の編集作業が最終的な段階を迎えていた。それらイベントに関わり、また、全集の編集作業に加わることを通じて、新たな聞き取り調査対象に接点を持ち、調査を実施するとともに、新たな史資料にも接点を持つことができた。以上のような過程で、前年の 2012 年に開催された大杉栄関連のイベントで報告を行っている。それを基礎にしたものが論文 6）である。ここでは、今日でも強い影響力がある大杉の思想が、現代の新しいアナーキストのものと似通っている、という点を指摘し、100 年以上にわたって存続するアナーキズムという本科研にとって重要な視点を示した。したがって、ここまでの研究成果を反映させた内容になっている。他方、イベントや編集会議などの交流の中で得た過去の運動や議論に関する知見を下敷きにしたものが論文等の 4）である。ここでは、大杉栄が 1945 年以降の日本におけるアナーキズム運動においても依然として強い思想的影響があり、その点を解明する必要があるという問題を提起している。

他方、2013 年には、国外のアクティヴィストを招へいし、国内の若手研究者およびアクティヴィストに報告を依頼し、国際シンポジウム「グローバル・アナーキズムの過去・現在・未来～日本とアジアをつなぐために」を、11 月 18 日に明治大学駿河台校舎リバティータワーで開催した。このときに、意見の交流とともに、本研究で提示しているグローバルな歴史の中に日本のアナーキズムを位置づける、という目的を共有することができた。このシンポジウムの成果は図書として刊行した。同書は、世界に向けて日本の研究を発信することを目指し、日本語と英語の両語併記という斬新な内容となった。

最終年度の 2014 年には、補充調査、成果報告、および、これまで収集した口述資料および文献史資料をデータベース化するための準備に着手した。補充調査としては、1970-現在までの時期にアナーキズム運動に加わってきた人びとに聞き取り調査を実施し、グローバルなネットワークとの接続があったという事実が明らかになり、また、アナキスト連盟解散以降の動向の一端が解明された。さらに、この聞き取りとともに貴重な史資料を収集することができた。別の科研研究会（「近現代アメリカ社会運動史の再検討」基盤研究 B）が開催した研究報告会「トランス・パシフィック・サンディカリズムとは何か？」に参加した人びとからも聞き取り調査を実施することができた。以上のような調査を背景にして実施した口頭報告が、4）5）6）であり、これらにおいて、本科研研究の成果の一部を報告した。また、これら報告および聞き取り調査の知見を基礎にして論文 5) 11）を執筆した。

以上の調査の結果、1945 年以降の日本にお

けるアナーキズム運動に関わる諸事実の一端が明らかになった。また、20 世紀を通じて形成されたグローバルなアナーキズム・ネットワークと日本アナーキズム運動との関係についても様々な事実が明らかになった。ただし口述資料に関しては個人情報に関わり、すべて非公開である。したがって、本研究の研究成果としてデータベースを公表する際には、そういった情報は非公開にする必要があり、他方では、それ以外の文献や史資料に関する情報は公表する必要があり、情報の取捨選択に関して細心の注意が必要とされる。そのため、公表するデータベースの作成については、その方法・形式を含めて、今後さらに時間をかけて慎重に検討していく必要がある。

以上述べてきた内容には、非公表であるために、聞き取り調査の成果を直接反映させることができなかったが、それぞれの内容に関しては、聞き取り調査をしなければ進めることができなかったものが多く含まれている。総じて本研究は、これまでほとんど先行研究がない現代日本のアナーキズム運動史とグローバルなアナーキズム史との連関を解明する数少ない試みの一つとして一定の成果を上げた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　11　件）

1）田中ひかる「日本とアメリカのアナーキストによる国境を越えた交流と連帯－山鹿泰治とボリス・イエレンスキーの往復書簡に見る「太平洋を越えた支援」－（一）1948～51 年－」『初期社会主義研究』24 号、査読無、2012 年、119-137 頁。

2）田中ひかる「サン・ティミエ国際アナーキスト会合参加記」『アナキズム』16 号、2012 年、査読無、76-96 頁。

3）田中ひかる「現代アナーキズムの諸潮流サン・ティミエで出会った、動物解放派／ヴィーガン、アナーキスト・ブラック・クロス」『トスキナア』17 号、2013 年、査読無、8-16 頁。

4）田中ひかる「大杉栄の文章はなぜ読みつがれるのか」『アナキズム』17 号、査読無、2013 年、19-37 頁。

5）田中ひかる ‘The Reaction of Jewish Anarchists to High Treason Incident’ , in: *Japan and High Treason Incident*, 査読無、London/ New York: Routledge, 2013, pp.80-88.

6）田中ひかる「『近代思想』をおもしろく読む三つの方法」『大杉栄と仲間たち『近代思想』創刊 100 年』ぱる出版、査読無、2013 年、118-128 頁。

7）田中ひかる「日本とアメリカのアナーキストによる国境を越えた交流と連帯（二）：朝鮮のアナーキストに対する支援 1950-1954 年」『初期社会主義研究』25 号、査読無、2014 年、80-99 頁。

8）田中ひかる「＜報告＞展示　山鹿泰治展―エスペラント・アナキズム・DIY」『文献センター通信』アナキズム文献センター、査読無、2014 年 6 月 30 日、1-3 頁。

9）田中ひかる「解題」『大杉栄全集』第 2 巻、ぱる出版、査読無、2014 年、447-483 頁。

10）田中ひかる「新しいアナーキズムはなぜ「新しい」のか―思想と運動の変容に関する史的考察」『歴史研究』52 号、査読無、2015 年、39-76 頁。

11）田中ひかる「バクーニン生誕 200 周年記念参加記」『アナキズム』19 号、査読無、2015 年、32-60 頁。

〔学会発表〕（計　6　件）

1）田中ひかる「グローバル・アナーキズムから見る日本アナーキズム史」国際シンポジウム「グローバル・アナーキズムの過去・現在・未来～日本とアジアをつなぐために」2013 年 11 月 18 日、明治大学駿河台キャンパスリバティータワー。

2）田中ひかる「ロシア出身のユダヤ系移民アナーキストによるアメリカ合衆国における活動　1905-1920　移動／移民と思想／運動形成の関係」第 64 回日本西洋史学会賞シンポジウム「移民」概念の再検討とグローバル・ヒストリー、2014 年 6 月 1 日、立教大学。

3）田中ひかる「趣旨説明」、研究報告会「トランス・アトランティック・サンディカリズムとは何か？」、2014 年 6 月 7 日、大阪教育大学天王寺キャンパス。

4）田中ひかる ‘Bakunin and Japanese Anarchist’, International Conference for Bicentennial of Mikhail Bakunin、2014 年 7 月 12 日、Pryamukhino, Russia

5）田中ひかる「虐殺を世界に伝えたアナーキストの情報ネットワーク＋IWW コネクション」橘宗一墓前祭／講演会、2014 年 9 月 15 日、愛知芸術文化センター。

6）田中ひかる ‘Act Right Now: Global Anarchism, It’s Vicissitude and Range’ , Anarchy Alive!（招待講演）、2014 年 12 月 14 日、東京外国語大学。

〔図書〕（計　1　件）

田中ひかる・飛矢崎雅也・山中千春（編著）『グローバル・アナーキズムの過去・現在・未来～現代日本の新しいアナーキズム』関西アナーキズム研究会、2014 年、全 176 頁。

６．研究組織

(1)研究代表者

田中ひかる（TANAKA　Hikaru）
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：272774